

「こだいら 水と緑の会」

事務局 馬場 淑子 Tel/Fax 042-345-6772

## 1. 次年度の活動指針

3月26日無事第一回目の総会が終了しました。その前の3月3日付けで、当会は「水と緑と公園課」に、下記の内容の要望書を提出しました。

### A、用水路の整備について

- a、「あじさい公園」の南～南西部、現在暗渠となつている部分を開渠とし、水辺の遊歩道として整備する。また、自転車道から対岸への橋を設置する。
- b、上宿公民館の西側～水門までの、現在東京都の資材置き場としてフェンスで囲まれている土地を、水辺の遊歩道として整備する。
- c、回田町の、大沼田・鈴木用水の水門周辺は、緑ある良質な水辺景観として、市民の憩いの場となるよう整備する。
- d、新堀用水の小松橋～桜堤までの、用水路沿いのフェンスを撤去し、景観に見合った低いものに変える。

### B、水源の確保について

水源の確保に当たっては、JR武蔵野線の地下水を流してもらうよう、東京都並びに近隣市と協力してJRに交渉してほしい。

### C、用水路開削 350 周年記念行事について

- a、市内の全用水路に、名称を記した案内板と、史蹟としての説明版を設置する。
- b、市内に数箇所、人目につきやすい場所に、小平市の用水路の全容を明記した案内板を設置する。
- c、上水公園内西側部分に、揚水車を設置し、水を汲み上げてビオトープを作り、再び新堀用水に流すような整備をする。

すぐ実現することは難しいでしょうが、平成16年度・17年度は、要望書の内容に可能な限り近づけるような活動を目指します。点を繋げて線とし、当会の活動が市民の目に見えるようにしたい。また、「用水路を大切に」気持ちを多くの市民の方に実感として抱いていただくことを目指して、『用水ボランティア』の実施を検討しています。

今年度も多くの方の智慧と協力をお寄せいただきたいと思います。

## 2、平成 14・15 年度の活動報告から

活動実績として

- a、延命寺公園（仮称）検討会に参加し、行政と協働の形で、整備案に当会の意向を大幅に盛り込めたこと。
  - b、小平需園さいから窪湧水池の請願を「東久留米の水と緑を考える会」と共同で行ったことで、園内の整備をより雨水浸透を促進するものに計画を練り直させたこと。
  - c、高橋 裕・亀山 章両先生の講演会を国土建設学院と共催し、成功させたこと。
  - d、「用水路 昔語り」第一集・第二集を発行したこと。
- は、特筆すべきことだと思います。

それ以外に、

毎月第四金曜日 18 時～20 時 中央公民館学習室 3 定例会

毎月第三土曜日 「ふれあいウォーク」

を実施。また、市の「市民版環境配慮指針づくり」に参加。等。平成 16 年度は、これまでの活動を基本的に継続する一方で、新たな試みにも挑戦する考えです。

## 3、役員人事

役員人事が次のように決まりました。

代 表	馬場 政孝
事 務 局	橋村 悟・馬場 淑子
会 計	須賀 美佐子
会計監査	佐藤 昭蔵



4月7日～14日 小平市役所1階（入り口より右手の通路）で  
国土建設学院の生徒達の作品が展示されます。  
若者が、自由な発想で描いた小平市改造計画です。  
是非ご覧下さい。

## 4、平成 16 年度活動予定（7月までの主な活動）

- 4月 17「ふれあいウォーク」、23 定例会、秋川行き（カワニナと水草採取）・小川寺  
開き取り・「水と緑と公園課」野中課長との懇談・小平前田市長との懇談を予定
- 5月 9 グリーンフェスティバル参加、28 定例会、「用水ボランティア」開始等
- 6月 「青らんぎ」祭り参加
- 7月 郡上八幡市視察

## 5、水と緑通信（ボランティアに参加を希望される方は当会事務局までご連絡下さい）

- 「あじさい公園」ボランティアから　しばらくお休みしていた「あじさい公園」のボランティア作業が3月17日から再開されました。公園内の掃除と、防犯のための道作り準備としてあじさい数株を移植。また、玉川上水沿いから「玉あじさい」4株を公園内に移植しました。今年度は公園内の花壇にも手を入れます。
- 「用水ボランティア」から　今まで「ふれあいウォーク」を実施する前に自発的に「武蔵野荘」の草取りをしていたのですが、あまりに用水路が汚いので、隣接する回田町の水門周辺も一緒に掃除してきました。小川用水が大沼田用水と鈴木用水に分かれる地点です。川底の沼さらいやゴミの回収。さらに、二つの用水路に挟まれる三角地帯はゴミの不法投棄が絶えぬところだったのですが、根気よく掃除を続けているうちに、目に見えてゴミが減ってきています。現在「用水路を大切に作る心を育てる」ために、「用水ボランティア」を当会で促進することを検討中です。
- 「市民版 環境配慮指針づくり」から　一年半掛けた「市民版 環境配慮指針づくり」ですが、3月31日最終のまとめの印刷を終えました。公民館や地域センターに置いてありますので、是非ご覧下さい。当会も「雨水浸透の促進」や「用水路は小平の共有財産」「用水にごみを捨てるのはやめよう」「用水ボランティアに参加しよう」などの標語を載せるのに貢献しました。
- 「蜚」から　4月中にカワニナと水草の採取に行き、用水路に放流します。3月中、取水口の水門の工事のため市内用水路がほぼ全面的に20日間ほど水が止まりました。用水の生き物保護のため、出来るだけのこととはしましたが、干上がった川底で死んだ魚が干からびているのを見るのは辛いことです。例年5月に実施されている「沼さらい」も、もう少し水を止める日数を短くしてもらおう要望を出すことを検討中です。
- 奥多摩の山に広葉樹の苗を植えよう！　水源地の緑の荒廃は、水の荒廃（水量の減少・水質の悪化）につながります。これを防ぐため、奥多摩の山に広葉樹の苗を植える運動に参加しようと考え、まずは、現在運動を進めている国分寺資材主催のイベントに参加を予定しています。将来、当会の行事の一つとして実施することを検討中。。
- 「揚水車」から　まだ願望の域を出ぬ状況ですが、熱い思いを抱いています。実現に向けて、是非いいアイデアやご協力をご提供下さい。  
Email [gaai@fc5.so-net.ne.jp](mailto:gaai@fc5.so-net.ne.jp)  
HP <http://www009.upp.so-net.ne.jp/water-green/>

## 70年代の『ひょうたん森』とその周辺

橋村 悟

僕が幼い頃、当時大沼町に親戚が住んでいました。その頃我が家では両親は共働き、四つ上の兄がいるのですが、野球や剣道に明け暮れ、夕方まで帰ってきませんでした。小さかった僕は、その頃実家に同居していた祖父と一緒に過ごす時間が多かったのです。祖父の自転車の荷台に乗せられて、親戚宅へ結構頻繁に遊びに行っていました。その周辺境界についての記憶の一番古いものは、僕が4歳二なるかならないくらいのもので、大体1970年（昭和45年）の頃です。その頃の記憶を記していきます。

親戚宅へ向かうには、実家（学園東町）から小平駅の踏切を越えて東京街道に出て、美園町を経て、大沼町に至るわけですが、当時、東京街道のすぐ南側にはドロドロの汚い緑色をした「ドブ」が東から西に向かって流れていました。いや、流れているとはいえ、それはドロリとした感じで、周辺からも垂れ流しの状態でした。子供ながらに、見るに忍びない、というさんさんたる有様でした。この「ドブ」を東京街道に沿って東に向かうと、大沼保育園通りとのT字路の辺りで直角に南に折れていました。これがその頃の、美園町周辺の小川用水（この辺りでは大沼田用水上分ともいいます）の姿でした。

尚、南の方向から東京街道に出た「ドブ」（小川用水）は西へと向かっていましたが、実はこの地点でどうやら二股に分岐していたようです。と言うのは、一方で逆に東に向かう、東京街道の北側に沿うような水路の残骸がはっきりと残っていたからです。当時伯母に聞くと、その昔は確かにこの水路跡の窪みに水が流れていたそうです。

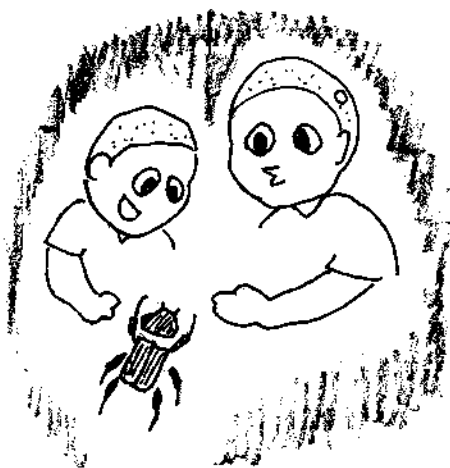
同じ頃の思い出でかなり鮮烈なことは、兄と同年の従兄弟の「カズちゃん」に、これまた自転車の荷台に乗せられて、『ひょうたん森』に初めて連れていってもらったことでしょうか。夏の夕刻、親戚宅の縁側で「カズちゃん」とスイカを食べていた時「悟君、今晚カブトムシとクワガタを採りに『ひょうたん森』に行ってみない？」と言われ、僕は大喜び。夜が更けるのを待って僕達はいそいそと『ひょうたん森』へと向かいました。ただ、何分

あの頃の大沼町（特に回田道以東の）境界は今より街灯が少なく、漆黒の闇に近かった気がしました。東京街道を東へとしばらく向かってから、今日では東京ガス西通りになっている細い路地を北に曲がるのですが、その路地のすぐ左にも、これまた結構深そうな汚い「排水路」がありました。道も狭いし、何と言っても自転車二人乗りですからバランスも悪い。おまけに路地の右手側からは小さな水路も迫ってきます。

（これが今日でも流れて大沼田用水。小川用水



同様、玉川上水の分水です。この辺りでは大沼田用水下分ともいいます。)二人して、どちらかに落ちてしまわないよう気をつけつつ、無事『ひょうたん森』に着きました。繰り返しのようになりますが、周辺は漆黒のまた漆黒の闇でした。懐中電灯の灯りだけが頼りでしたが、不思議なことにしばらく時間が経過すると慣れてくるのでしょうか、うつすらと周りが見えるようになってきます。その夜は面白いようにカブトムシもクワガタ(殆どはノコカヒラタでした。今では投機の対象にまでなつているというオオクワガタもたまたま採れましたが、ミヤマは見たことがついぞありません。)も採れました。カナブンはもっと沢山いましたが、僕達子供にしてみれば、悪い言葉で言えば「かす」同様だったので見向きもしませんでした。カナブン君、済まん。



あの頃、時代は高度経済成長時代。大沼町・美園町周辺の用水路は前に記したように既にその煽りを受け、「ドブ」化していましたが、『ひょうたん森』のような場所は、歳月遙か下って僕が小学校を卒業する頃、1979年(昭和54年)初頭位まで、小平には結構残っていたような気がします。「のほほん」と「のんびり」した、いい時代だったと思います。僕自身の幼少時は春風駘蕩の一言に尽きるのではないのでしょうか。

あれから34年。東京街道に沿っていた「ドブ」は後に蓋をかけられ、歩道として活用されるようになり、今日に至っています。因みにこの小川用水には現在、羽村の堰を伝って多摩川の水が流れています。それは大沼田用水も同じです。すごく綺麗な水です。もう「ドブ」ではなくなったのです。これは素晴らしいことなのですが、一方で残念なことに、あの『ひょうたん森』は跡形なく完全に消え去ってしまいました。今ではそこに、清楚な住宅街が広がっています。恐らく、今の20代半ばから下の方は『ひょうたん森』のことは知らないでしょう。しかし、当時の少年達の胸の中に『ひょうたん森』は、そこで過ごした日々と共に永遠に生き続けるでしょう。

ダラダラと長く凡庸で稚拙な文章で申し訳ありませんでした。出来れば、あの頃の少年達、リストラに怯え、サービス残業に追われ、家のローンで苦悶している、僕と同世代の30から40歳代の方に読んで頂ければ幸いです。さらに、過去を顧みてノスタルジックな気分になってホッとして頂けると、僕はもっと嬉しいです。

**会員募集中です！きっと貴方にも出来ることが見つかります。**

## 用水を街のせせらぎに

街の中に水の流れがあるのは、とてもすてきなことです。と言っても、実はそう思い始めたのは大人になってからです。私が育った金沢市には2つの川があり、そのほかに用水路(子どもの頃は川だと思っていた)があちこちに流れていました。でも、私にとってはあたりまえの風景だったせいか、当時は水がどんどん汚れていく時期でもあったせいか、用水路の流れはちっとも魅力的なものではありませんでした。

今から何年も前になりますが、世田谷区で緑道沿いに人工的な流れをつくったところや大田区で歩道に沿って流れをつくりポンプで循環させているところを見たことがあります。つくり方の評価は別にして、都市の中で「せせらぎ」がいかに求められているかを強く感じました。「水」があると、ホントに気持ちのいい空間になるんです。都市に快適な環境をつくっていくためには、親水空間は欠かせないと思います。

小平市には55 kmにおよぶ用水路があります。川も湧水もほとんどない小平市にとって、用水はとても大切な水辺空間です。1995年にできた「用水路活用計画」をもとにして、歴史的遺産としての役割とともに、都市の中でうるおいのある空間として、少しずつ流れを復活させています。街を歩く市民にとっては見えつ隠れつするこの流れには、気づかない人も多いかもしれません。それは、道路に面したところや親水緑道ばかりではなく、大きな家の庭や家と家の間を流れているところも多いため、かつて生活用水であった証しとも言えるでしょう。

日野市には、用水の里親制度があります。日野市はとても水の豊かなところで、多摩川、浅川、程久保川といった川のほかに、180の湧水、170 kmの用水があります。この用水路や湧水地などを将来にわたって維持していくために、「日野市用水路等里親制度要綱」を2002年に制定しました。これまでの行政や用水組合だけでなく、地域の活動として住民や自治会に参加を呼びかけて、用水などの維持管理を進めていこうというものです。まず、里親を公募し、登録します。場所や区間は里親が設定し、その区間は責任をもって行います。里親の活動は、掃除・草刈り・緑化などで、年度終了後活動報告書を提出します。里親の活動は無償ですが、市はボランティア保険加入や腕章の配布、ごみの収集、懇談会の開催などを行っています。今年の2月現在、登録者は31件、総勢462人で、登録区間は約7.3 kmです。より多くの人に用水路などの存続の大切さと用水の年間通水の必要性を理解してもらうための制度でもあります。

いろんな地域でさまざまな市民活動が展開されています。なるべく多くの人に用水路の存在を知ってもらうためにも、日野市の事例は参考になると思います。

私が育った街でも、用水の流れを生かした街並みづくりが進められていました。城下町の裏通りを流れる水量豊かな用水は、街並みがちょっとわざとらしくなったけれど、存在感を増しています。水辺空間のある街は魅力的です。用水路が小平のせせらぎになって、この街がさらに魅力的になるとすてきですよ。

苗村洋子